

東日本大震災・支援ニュース NO9

『宮城野の里』からお礼のメール（施設長・小野ともみさん）

全国の21老福連加盟の皆様、このたびの大震災に際し、たくさんの方の物資および人的支援に、心より感謝申し上げます。

3週間経過し、宮城野の里にもガスがとおりに、これでライフラインは通常に戻りました。公共交通機関が、まだまだ復旧しておりませんし、ガソリンも手に入りにくい状況は変わりありません。けれども、ずいぶん気持ちも体も楽になりました。これも、皆様のおかげです。震災で家が流されたり、浸水して住めなくなった方々はたくさんおられます。その方たちのご家族や近所の方が亡くなったり、行方不明だったり、悲惨な事態に胸が突かれます。この方々、特に高齢者の居場所として、「福祉避難所」を開設しています。

全国の21老福連の皆様、お忙しいこととは思いますが、福祉避難所に応援に来て下さい。これまでの支援やこちらの取り組みを、是非いつか報告したいと考えています。今日はこれまでにします。又、書き込みますね。

復旧工事関係の仕事で被災地へ

前号で、上荒屋の今宮さんが、18日から医療機関への支援に行くことをお伝えしましたが、なんぶの職員の息子さんが配管の仕事をしており、震災地の復旧工事の関係で仙台に行かれることになりました。親御さんは「大事な仕事なので送り出したいが、現地の状況などを聞くと、何を持たせたらいいか・・・寝袋で寝たこともないし・・・不安もある・・・」とのこと。健康に気をつけて頑張って来てください。様々な支援が今後もまだまだ必要です。

県内へも避難の方が来ておられます

末町の県営住宅に福島からの避難者の方が来られています。尾西県議におたずねすると、あちこちの県営住宅の空き部屋に入ってもらっているとのこと。また、末町や西大桑町でも、「福島原発の放射能の影響の不安があるので、孫を預かっています」とのお宅もあります。

上荒屋には、まだ、被災地の要介護者の方の具体的受け入れの県からの返信は来ていませんが、受け入れ準備を進めています。

